

高松平和病院ニュース

〒760-8530 高松市栗林町1-4-1 TEL.087(833)8113(代表) HPアドレス:<http://www.t-heiwa.com/>
発行責任者:高松平和病院 院長 蓮井宏樹 編集:広報委員会 発行年月日:2021年2月1日



高松平和病院
病院長 蓮井宏樹

2021年 新年ご挨拶

明けましておめでと
うございます。

去年は気の抜けない、そして閉塞感に満ちた1年でした。

新型コロナの全世界での流行により、これ

までの人類史の中でも有数の大きな変化が起きています。

日常生活では自宅以外ではほぼ常にマスクを装着、外出を控え、人とは距離を置き、自由に移動することもできなくなりました。オンラインのモニター以外で人と人が交流する機会は激減しました。

多くの人の命が奪われ、暮らしが破壊された現実の一方で、新自由主義の歪んだ虚構の経済のもとで、かつてないほど富める者と貧困に苦しむ層の格差が拡大しています。弱い立場になった多くの人々の社会的・経済的な孤立と人間社会の分断が急速に進行しています。患者に対する誹謗や中傷、医療従事者に対するいわれない差別や偏見などもありました。人類全体の危機にありながら、大国のエゴで国と国との関係も不満と不信が根深くなっています。感染の制圧のために個人の権利よりも封建的な国家権力の強化を望む声を利用しようとする動きにも注意が必要です。

音楽家の坂本龍一氏は新聞のインタビューに答えて「資本主義のあり方を根本的に見直さなければ人類の未来はない」と訴えています。資本主義が行き着いた新自由主義は経済的効率を何よりも優先して福祉や教育を切り詰め、医療体制を脆弱なものにしてきました。コロナ禍で医療体制は逼迫し、医療崩壊の危機が迫っています。残念ながら政府・政権与党はこの最大の危機に際して、文化や科学を軽視してリーダーシップをとることができていないばかりか、自らの腐敗や墮落を自浄できず、一方で国民にはまず自助、自己責任で解決すべきとして国民の苦難と真摯に向き合おうとしていません。

わたしたちはこんな困難な時代こそ、「みんなは一人のために、一人はみんなのために」という医療生協の理念のもとで共感し合い、共同(働)し、「健康で明るく安心して」共存・共生できる社会を目指す、そのために力を発揮していこうと思います。困難を抱える人々と共に、国に対して感染対策はもとより社会を支える根本としての医療・福祉・教育など社会保障の拡充を求めていくことが必要です。

今年は丑年です。引き続き感染対策に努めながら、歩みはのろいかもしれませんが着実に地域医療に貢献できるよう職員一同力を合わせてがんばります。

皆様のご支援、ご協力のほど心よりお願い申し上げます。

高松平和病院
理念

1. 患者の権利を守り常に信頼される医療を提供します。
2. 健康づくり、明るく安心して暮らせるまちづくりに貢献します。
3. 平和と医療、福祉を守ります。



参加レポート



11月
23日



香川民医連 第27回 看護介護活動研究交流集会 が行われました



今年27回目を迎え、ひきこもりや終末期の家族ケアや在宅復帰支援、多職種連携、転倒予防など様々な研究発表が行われ盛況に終えることができました。

研究に取り組むことで、自分たちの行った看護や介護を振り返り、様々な分野の医療介護活動を知るといった意義があると思います。これからもこの積み重ねを継続していきたいと思っています。

県連看護学術担当 師長室 福家

12月
5日



第14回 リハ学会 が行われました

今年は新型コロナウイルス感染症予防のため、中止も考えられていましたが、しっかりとした感染対策のもと、参加者数を例年より制限し今年も無事行われることになりました。毎年、この時期に理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などのセラピストが、入院・外来・訪問などさまざまな分野から、気になった患者様を通して学んだことを発表します。

今回リハ学会では、各事業所での取り組みや治療アプローチについての演題があり、セラピストとしての知識を深め、施設間での情報共有ができました。演題のなかで「転倒について」も取り上げられていたのですが、どの事業所でも課題となっているテーマだと思っています。

私は入院患者さまを担当していますが、患者さまが今後の在宅生活で転倒しにくくなるためにはどのような対策が必要か考えるきっかけとなりました。

また、次の回復期や維持期のリハビリに繋げるにはどうすればいいのかを改めて考え、セラピストとしての視野を広げられるようにしたいと思います。





クリスマス会



3病棟

3病棟では、新卒看護師と指導担当看護師が中心となり患者様とのクリスマス会を毎年行っています。

今年は、クリスマスソングを歌い、サンタの物語の紙芝居を行いました。クリスマスプレゼントとして患者様に手作りスイーツを配り、皆様に喜んでいただきました。

そして2021年が良い年になるように絵馬作りを行いました。新型コロナウイルス感染症の流行で不安もありますが、患者様とスタッフが笑顔で過ごすことが出来ました。



4病棟



4病棟では、12月24日にクリスマス会を開催しました。

今年は4月に入職した看護師が企画運営し、少しでも楽しんでもらえる時間をと考え、ビンゴゲーム大会と患者様に手作りメッセージカード&プレゼントを用意しました。

コロナ禍でご家族との面会も制限がある中ですが、患者様と終始笑顔で楽しいひと時を一緒に共有できました。



5病棟(緩和ケア)

緩和ケア病棟では、12月21日にクリスマス会を行いました。

毎年、ボランティアさんが飾り付けを行い、例年はラウンジで演奏を聴きながらお茶会を開催していました。しかし、今年は新型コロナウイルス

感染症予防のため、ボランティアさんが来ることが難しく、人が集まるお茶会や演奏会もできません。そこで、いつもと同じことはできないけど、何かクリスマスを感じてもらいたいと考え、看護師が各部屋に飾り付けを行い、ケーキやフルーツポンチをつくり、希望された患者様やご家族の方に自室で食べていただきました。予想以上に喜んでいただき、普段食欲がない患者様も「食べてみようか」と笑顔になりました。その後、メッセージカードを主治医がサンタさんとトナカイになり患者様一人ひとりに手渡し、優しく声をかけると「こんなことまでしてくれるの」「記念に私の携帯で一緒に写真を撮って」と喜ばれました。

コロナ禍で、今までのようなクリスマス会を開催することは難しいですが、入院中のほんのひとときではありますが、穏やかな時間を過ごしていただけてよかったと思います。

これからも患者様やご家族に寄り添ったケアが出来るように、心のケアも大切にしていきたいと思います。





職場紹介



認知症 ケアチーム



認知症ケアチームは、2016年9月に結成し、看護師とリハビリセラピストを中心に活動を開始しました。

認知症ケアマニュアルを策定し、ひもときシートでカンファレンスを行ったり、スタッフへの研修計画を毎年立てて実践しています。

また新型コロナウイルス感染症が拡大する前までは、週に1回院内デイケアを行い、ボランティアさんにも入ってもらって様々なレクレーションやエクササイズを行っていました。

今年度は認知症のご家族向けのパンフレットを作成し、全職員に読んでもらい、院内認知症サポーターを増やす取り組みを行っています。

認知症の患者様やご家族に安心して病院を使用していただくために、今後も様々な取り組みを行っていきたいと考えています。



リハビリ科では、理学療法士19名、作業療法士7名、言語聴覚士1名で、地域に密着したリハビリテーションを意識し、入院直後の急性期の状態から住み慣れた地域や在宅での生活期まで幅広い支援をしています。



リハビリ科

整形・内科急性期病棟・地域包括病棟・緩和ケア病棟の各病棟において退院に向けたリハビリ、外来では発達障害を対象とした小児リハビリ・当院退院後を中心とした成人のリハビリ、利用者さまの自宅へ訪問し生活の中でリハビリを行う訪問リハビリなど、入院から退院後の生活まで一貫したリハビリテーションを提供しています。当院から退院される患者様に対しては、必要に応じて退院前に自宅や施設へ訪問し、退院後の移動動線の確認や福祉用具・介護サービスの検討などを実施し、退院時にはその後の生活における注意点や自主トレの指導をおこないます。

また、地域での活動として、班会で健康づくりの体操や講座など、地域に寄り添った取り組みを行っています。例えば、肩こりや腰痛などの痛みに対するストレッチや体操、フレイルやロコモなどのお話をしています。もし興味があれば、一度医療生協へご相談ください。

